

将来像 10 地域の交流・持続を支える基盤を整える

多様な主体が地域運営に乗り出す動きが拡大し、地域活動団体や地域人材の充実が進むとともに、地域を取り巻くさまざまな基盤が拡充、有効活用されることで、持続する地域づくりが広がっている。

〔夢提案〕

- 地域で開催される行事に参加することで自分たちがつながっていることが自覚できる。(県立農業高校生)
- 地域の団体も縦割で、自分たちでできないことは手を携えてやろうということになった。(神戸市内NPO役員)

コミュニティによる主体的・自律的な地域運営が活発になっている

- ・地域の魅力を高めるための住民主体による地域活動の企画・運営がなされている
 - 自治会やまちづくり協議会が母体となり、NPOなどとも連携した自治組織が形成されている
 - 地域の資産価値を高めるため、住民でルールを作り、まちづくりが行われている
 - 高齢者の移動を支える公共交通システムを地域住民の手で導入し、経営している

ルールを明文化した集落の経営(丹波)

神楽地区では全世帯が加入するNPOを設立し、集落外の人の協働も含む集落経営のルールを明文化。農作業体験、農村レストラン、農家民泊や空家情報提供などの事業を展開。



地域づくりの人材育成や企業と地域との協働の輪が広がっている

- ・地域づくりをプロデュースする専門的人材の育成が進んでいる
 - 地域や社会との関わりへの知識・態度・技能を体得する人が増え、地域づくりを企画・実践する人材が育っている
 - 企業・NPO間の交流が進み、多様な価値観が育まれ、職業間の円滑な移動も実現している
- ・企業市民としての地域への参画意識が生まれ、地域づくり活動への貢献が進んでいる
 - 企業の社会貢献・地域参加で地域が活性化している

大手企業社員がNPOとして中小企業を支援(神戸) 中小企業診断士などの資格を持つメンバーがNPOとして地域社会への貢献を目指し、地域の中小企業の経営支援を行っている。多岐にわたる業界の現役のビジネスマンがメンバーとなり、経営診断や経営指導、セミナー活動などを行っている。

県内ホテルの社会貢献(神戸)

知的障害者へのケーキづくり技術の伝承、若者の職業体験受入れなど、青少年の健全育成、自立支援に関わる取組を幅広く行っている。



地域団体、NPOなどによる「新しい公」が地域を支えている

- ・地域団体、NPOなどが地域社会の協働と自立の一翼を担い、住民主導の地域運営ができています
 - 自治会や協議会が行政に代わり地域の公共施設などを積極的に管理運営している
 - 地域主体の資産運営による地域空間の質の向上と活動資金調達が実現している
- ・地域コミュニティの企業化が進み、地域内で資金循環を促すしくみが整う
 - 地域で出資する「まちづくり会社」が住民と連携し、自立したまちづくり活動を行っている
 - 地域づくり活動を支援する地域ファンド(基金)のかたちが構築され、資金が循環している

公的施設を住民が地域密着で運営(神戸)

野田北部地区の住民が設立したNPOが鷹取駅前の市立駐輪場の指定管理者に。住民が指導員となることで放置車両が減少。利用増、使用料収入増の好循環を生んでいる。



持続可能な地域づくりを支援するファンド(西宮)

商工会議所、NPOなどが協働で支援資金循環のしくみを構築。市民が行った環境や福祉などに関する活動ポイントに応じて地区のコミュニティ会議に、寄付などを財源とした活動資金が還元されるシステム。



多彩な交流・物流を支える社会基盤が充実している

- ・人やモノの活発な移動を支える社会基盤が充実している
 - 道路網が県民の暮らしを支え、交流・物流を活発なものにしている
 - 鉄道や港湾が環境負荷を抑えて移動できる環境改善の基盤となっている
 - 航空ネットワークが他府県や海外との距離を縮め、交流をより拡大させている
- ・計画的・効率的な維持更新によって信頼性の高い施設が維持されている
 - 適時適切な修繕や維持管理で社会基盤の長寿命化が確保されている
 - 維持管理の効率化を考慮した技法によって建築物の長寿命化が図られている
- ・多彩な情報交換ができ地域活性化に役立つ情報通信基盤が整っている
 - 公共空間でのインターネット環境が高度化し、誰もがどこでも通信サービスを利用できる
 - 地域活性化や地域課題の解決に情報通信基盤が活用されている
- ・空き空間や既存施設をうまく使いこなし交流の場が創造されている
 - 廃校舎などの空き施設が交流の場に生まれ変わり、コミュニティの再生に役立っている
 - 運動公園がスポーツだけでなく、ふれあいや交流を盛んにする場になっている
 - 芸術・文化施設が幅広い世代の交流や学習の場として使いこなされている

交流・物流を支える基幹道路や公共交通などの基盤整備

活力ある兵庫の交流を支えるため、将来を見据えた基幹道路網の整備促進や暮らしに密着する国道・県道・市町道などの一般道路の整備が進む。港湾機能の強化や連続立体交差による渋滞解消、安全・快適で使いやすい交通体系構築への取組も進む。



公的施設の維持管理を着実に実施

道路、河川、港湾施設の管理者は、誰もが安全快適に利用できるよう、舗装修繕、河川の堆積土砂除去、河川や港湾の設備点検など、日常的な維持管理に取り組む。



広がる地域主体の情報発信
インターネット放送局の開設や電子看板の設置など情報通信技術を活用し、地域の情報を地域自らが発信する取組が、商店街や地域づくり団体などとも連携して展開されている。



廃校での村カフェ（新温泉）

廃校舎を活用した行事を地コミュニティが開催。文化祭では校長室跡をカフェとして開放し、集落内外の人人の交流の場となり、継続的な開催を検討している。



公民連携により多様な手法での地域づくりが進み、より身近な県政となっている

- ・民間とのパートナーシップのもとで行財政構造改革が進み、持続する兵庫の基盤が整っていく
 - 民間の資金・技術活用の効率的・効果的な基盤整備や公的サービスが運営されている
 - 各主体が連携した取組が次々と試みられ、地域がさまざまな社会実験の場となっている
 - 県は他の主体と協働し、新しい公を支え、広域的な地域の発展への舵取り役を担っている
 - 生活、経済、行政など、さまざまな分野で県境を越えた広域的な連携が進んでいる

広域的な行政連携・関西広域連合

府県境を越える広域的な行政ニーズに柔軟に対応するため、関西各府県が連携し広域連合を設立。国の地方支分部局の事務の受け皿となることも想定し、防災、産業など広域行政を展開。



行財政構造改革の推進

時代の変化に対応し、県民の要請に的確に応えつつ、持続可能な基盤をつくるため、兵庫県では、「新行財政構造改革推進方策（行革プラン）」を制定し、行財政構造改革の着実な推進と適切なフォローアップを図っている。

協働シナリオ 10 確かな地域経営を支える交流・持続基盤づくり

県民と企業、県民と行政など各主体間の確かなパートナーシップのもと、多様な主体が参画した地域経営を進めるため、地域の自治組織の自主性を高め、地域づくりを担う人材を育成するとともに、交流が拡大し生活が持続する基盤を確立していく。

ビジョン 10年間の主な取組とこれからの展開方向

県民交流広場事業などの蓄積を生かしながら、地域、地区ごとに異なる課題に主体的に取り組む小さな単位の自治組織を応援していく。

企業の森づくりなどこれまでの取組を踏まえ、その地域ならではの豊かさを理解し地域づくりに貢献する人材の育成や企業の地域貢献・地域参加の促進に取り組む。

阪神・淡路大震災で芽生え、参画と協働を促すさまざまな取組で高まった共助の機運を生かし、地域団体、NPO、企業、行政などが連携して「新しい公」を根づかせていくためのしくみづくりを進める。

道路、鉄道、港湾、空港などこれまで整備してきた社会基盤の適切な維持更新と活用、住民主体で運営されるコミュニティバスなどの地域交通、多彩な交流・物流を拡大させる。

民間の効率性やノウハウを生かした新たな公民の協働を進めるため、行財政構造改革や関西広域連合での広域行政の取組などを踏まえ、健全な財政に裏打ちされた行政の機動性を確保しつつ、横断的な課題について波及効果の高い取組を講じていく。

地域づくりを支える地域力の充実と自律的な地域運営

- ・地域の自立を促し魅力を高める企画・運営
 - 地域課題の解決に向けた地域づくり団体の協働促進
 - 住民主体による地域のルールづくり
 - 地域課題解決への集落外の人材や行政との連携拡大
 - 社会的起業の展開など地域づくりの自立採算化

地域づくりの人材の育成や企業の地域づくりへの参画

- ・地域や社会との関係性を養う教育プログラムの充実
 - シティズンシップ教育の推進^(再掲)
 - 住民と学校が連携した地域を学ぶプログラムづくり^(再掲)
 - 起業家精神を育む体系的な人材育成プログラムの展開^(再掲)
- ・地域づくりを担う人材の育成・確保
 - 地域づくりを企画・実践する人材の大学での育成^(再掲)
 - 企業・NPO間の職員の相互長期派遣協定の促進
- ・企業の社会貢献・地域参加の促進
 - 企業の社会貢献活動が地域の活性化と企業にとっても有為な人材獲得につながるしくみづくり
 - 地域課題と企業などをマッチングするしくみづくり

地域団体、NPOなどが連携した「新しい公」の成長、持続のしくみづくり

- ・これからの地域づくりを担う新しいしくみの成長
 - 地域団体、NPO、企業、行政などが連携した「新しい公」による、地域に必要なサービス提供の推進
- ・公共施設の指定管理などの拡大による効果的な運用
 - まちづくり協議会などによる公共施設の管理・運営



地域の交通を考える話し合い(佐用)



大学で進む地域再生人材の育成



地域の各団体が連携し
地域の事務局機能を担う(神戸)

- ・住民活動を支援する地域ファンド（基金）のしくみの構築
 - 社会的起業を支える住民主体のファンドの設立
 - 企業と連携した地域資源活用の取組を支えるファンド形成

多彩な交流・物流を支える社会基盤の充実

- ・広域交流や産業を支える基盤の整備
 - 県土、地域の動脈をなす幹線道路のネットワーク化
 - 移動の低炭素化の基盤となる鉄道、港湾整備
 - 国内外との航空ネットワークの充実・強化
- ・地域生活に密着した基盤の整備
 - 都市間連携の基幹となる鉄道、バスの維持・整備
 - 地域ニーズに応えるコミュニティバスの地域経営^(再掲)
 - 道路空間再配分、バリアフリー化による歩きやすいまちづくり
- ・社会基盤施設の適切な維持管理・修繕更新
 - 社会基盤施設の維持管理・更新費用の平準化
 - ライフサイクルコストを勘案した構造物の長寿命化
 - 耐久性と可変性を高めた維持管理しやすい建築の推進
- ・既存空間の有効活用などによる交流基盤の整備
 - 廃校など空き施設を活用した交流施設、コミュニティスペースの創出
 - スポーツやイベント交流空間の創出
 - 交流、学習を促す芸術・文化関係施設の充実
- ・地域活性化を促進する情報通信基盤の拡充
 - 公共空間におけるインターネット利用環境の向上
 - 地域課題解決への情報通信技術の活用と人材の育成



交流を支える幹線道路
北近畿豊岡自動車道の整備(朝来)



コミュニティバスの運行(神戸)



スポーツなどを通じてさまざまな交流が生まれる佐野運動公園(淡路)

民間の効率性やノウハウを生かした基盤づくりの展開

- ・民間の資金・技術を活用した基盤の整備や公共サービスの運営
 - 経済的インフラの民間資金活用による整備・運営
 - 再生可能エネルギー発電所の運営など、地域を社会実験の場とする新たな地域インフラづくりの取組推進
 - 民間のノウハウや市場特性の導入による公共サービスのさらなる効率化の検討
- ・地域活動や民間活動を下支えし、活力ある地域を創るための行政の役割発揮
 - 行財政構造改革の着実な推進
 - 各主体との確かなパートナーシップのもとでの県による広域的な取組支援や市町間の調整
 - 市町による地域課題の解決や小さな自治への支援
 - 県境を越えた行政連携による市民活動や経済活動の活性化、交流・連携による広域活動の誘発



PFI事業で整備・運営される
尼崎スポーツの森(尼崎)



住民とのパートナーシップによる
維持管理例「ひょうごアドプト」
道路美化活動(丹波)

将来像 11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す

暮らしの身近に、生活を支える機能の集積が進み、空間の有効活用が図られるとともに、これらと一体となりわいが確保されることで、それぞれの地域の潜在力が引き出され、個性豊かな地域として自立している。地域と地域の連携も深化し、互いに補い合い、魅力を高め合って、活力ある地域づくりが進んでいる。

〔夢提案〕

- ▶ 過疎化が進む課題を抱えているが、今ある自然を大切に、他の町と交流を深めることで、豊かで住みやすいまちづくりができるのではないか。(たつの市在住中学生)

農山漁村では、空き空間が管理・活用され、豊かな個性を生かす村づくりが進められている

- ・ 広域的な村の連携で安心して生活できている
 - 集落行事や地域特性を生かした広域的な集落の運営(広域村づくり)がなされている
 - 空き空間を地域の公共財として活用し、生活支援サービスが住民の手で展開されている
- ・ 自らの選択で村移りする集落もあるが、移転後の空き空間を活用するしくみが整っている
 - 移住支援や生活圏の再編に向けた取組を近隣集落が連携して行っている
 - 村移り後の耕作放棄地や空き家などの空き空間が再編、利活用されている。
- ・ エネルギーや食の自立が高まり、他地域への供給が進んでいる
 - エネルギーや食に関わるしごとがなりわいとして確かなものとなり、余剰分が都市など他地域の自給を補完している
- ・ まちからむらへの人の流れが大きく増加し、外部との交流で集落が活性化している
 - 都市部から農山漁村で暮らす人の流れができ、モノ・情報も双方向で行き交っている
 - 集落外の人や専門人材が地域づくりに参画している
 - 地域資源を生かしたツーリズム、週末居住、二地域居住などの支援体制が整っている

住民出資で生活関連サービスを確保(神河)
生活関連施設の維持に必要な人口規模と対応する地域単位毎に施設の集積を図り、集落の運営を担うため住民出資による株式会社が生活関連サービス施設などを経営。住民交流の場として県民交流広場を併設するところもある。



NPOなどがハブとなってむらと都市をつなぐ
集落住民と都市住民とが農作業の協働作業や交流会・祭りなどのイベントを共同で実施。放棄田の耕作地への再生やむらの野菜を中心とした農作物の生産加工及び販売も共同で行い、むらとまちのにぎわいが創出されている。



二地域居住を含む多自然居住の広がり
空き家の活用のため、県内市町などが主体となり、空き家などの情報を集めた「空き家バンク」を設置。インターネットなどでの情報発信により、田舎暮らしや二地域居住の希望者と空き家所有者をマッチングする取組が県内各地で拡大。

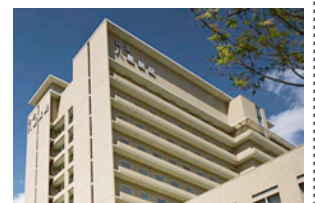


疎住化が進む多自然地域などの地方都市では、まちなかへの生活機能の集約が進んでいる

- ・ コンパクトなまちへと生活機能が集約化されている
 - 中心地への都市機能、住宅などの緩やかな集約化が進み、まちの核ができている
 - 中心地間や集落とを結ぶ公共交通軸が確保されており、身近な移動が容易となっている
- ・ 空き空間が住民ニーズに応じた活用となっている
 - 市街地の空き空間に住民・企業・行政の合意形成のもと、テナントなどが最適配置されている
 - 空き家が村移りした集落住民やコミュニティの受け皿となっている

質の高い地域医療を支える総合病院を核としたまちづくり(養父)

八鹿中心市街地では、公立病院の立地を生かした安心の拠点づくり、関連ビジネスの立地などによるまちの活性化が期待されている。



都市郊外のニュータウンは世代バランスがとれ、ゆとりとにぎわいのある空間になっている

- ・若年世代が住み加わり、ゆとりあるまちなみに広く居住している
 - 空き隣地での家族との近居・隣居、若年層への空き家の小口貸借などで、多世代が共住している
 - 中古住宅ストックが減築・改修再生され、ゆとりある美しいまちなみが整備されている
 - 空き地でのガーデニングや菜園により緑豊かな空間が創出されている
- ・職住学が近接しており、昼間にもぎわいのあるまちになっている
 - 職や学びの場が近隣に立地し、近隣内での勤務や通学、在宅勤務が広がっている
 - 高齢者や子育て世代を対象にしたビジネスが営まれている
 - 空き家を活用した生活機能を担う商店や子育て支援施設が近隣に立地している
- ・空き空間を活用し、エネルギーや食の自給力が向上している
 - 日照のよさを生かした太陽光発電住宅群や小規模発電所の設置が広がっている
 - 近郊遊休農地の市民農園化による食の自給意識が向上している

近居、隣居のニーズの高まりと対応

【高齢期の子ども世帯との現在の住まい方の推移（県内）】

	H10年	H15	H20
同居(二世帯住宅含)	10.7%	6.7	21.3
隣居(同一敷地内別住宅)	3.3	3.4	4.0
近居(徒歩10分以内)	12.4	9.3	14.6

(出典)
H20 住生活調査

住宅需要に合った共同住宅の「二戸一化」や「減築」共同住宅改修にあわせた隣接住戸との二戸一化や、減築再生における居室やオープンスペースの拡大により居住環境が改善、入居者の多様化が期待されている。

郊外ニュータウン内にしごとを創る（宝塚）

一般の民家をそのまま利用した「民家型デイサービス」を提供する宅老所を市内に開所。利用者は歩いて来られる範囲の近所の方が多く、泊まりの利用も可能。高齢化が進むニュータウン内にしごとの場が生まれている。



近郊の遊休農地や空き地有効活用（川西）

遊休農地の市民農園化や空き地でのファームングにより、住民が野菜などの自給の動きを始めている。



瀬戸内臨海部の都市では、多選択・多参画型のまちづくりが進んでいる

- ・多様な住まい方、多世代交流の場が創出され、安心して暮らせるまちになっている
 - 多様な属性の人がさまざまな居住形態を選択して住み、地域との交流の場も生まれている
 - マンションの垂直型コミュニティと近隣の既存コミュニティとの間で交流、防災連携などが図られている
- ・駅前や街路などが高齢社会に対応した生活空間として再構築されている
 - 商店街や公共地の空き空間が交流の場として再認識され、つながりの拠点となっている
 - 街路空間が歩行者、公共交通に再配分され、歩いて暮らせる都市へと変化している
- ・工場や業務機能の集約が進み、空き空間での都市ならではの商業、サービスが盛んになっている
 - 工場集積地と住居地との調和、オフィス跡など空き建物の利活用など、地域のまちづくりルールに沿った土地利用が進んでいる
 - その都市ならではの個性、まちなみが都市の資産として有効にまちの集客に活かされている

街路空間の再編（神戸ほか）

旧居留地などで、車道を狭め歩道の拡幅が行われている。景観形成地域での住民、事業者との協働によるまちづくりとあわせ、まちの魅力の向上を図っている。街路が歩行者中心の空間となることで、自動車を気にせず安心して買い物ができ、まちのにぎわいが創出される。



空きオフィスビルが別用途に転換されるケース（尼崎）

都心の空きオフィスに植物の生育環境（光、二酸化炭素濃度、養分、水分など）を制御して栽培を行う植物工場の立地が全国的に進みつつある。近隣商店街などと連携し販路を確保すれば、地産地消が実現する。



地域資源が保存・継承され、地域への愛着が生まれ、地域の魅力となっている

・美しい景観や有形無形の歴史・文化・遺産が大切に継承されている

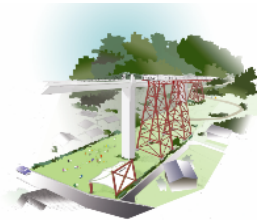
- 棚田や海岸風景など美しい景観が地域住民の参画により、身近な地域資源として維持されている
- 有形無形の歴史・文化、近代化産業遺産などが物語とともに地域で継承され、生かされている

・さまざまな地域資源がネットワーク化され、新たな地域の付加価値を生み出している

- 身近な地域資源を縦横につなぐ散策路(フットパス)の掘り起こしと再整備が進んでいる
- 地域資源を生かしたスローライフ(地域の風土の中で野ゆったりとした暮らし)やスローフード(伝統的な食文化)の実践により地域に根ざした「しごと」が広がる



近代土木遺産を観光資源として活用(香美)
余部鉄橋(旧橋)は、日本有数の近代土木遺産であり、貴重な観光資源。平成22年に防風壁を設置した安全な新橋梁へ架け替えられたが、旧鉄橋の橋脚3スパンを現地に保存し、新たに展望台(空の駅)として活用することで、人々の交流を促し、地域の活性化を目指している。



地域を越えて地域資源をつなぐ(中播磨、但馬)
明延、神子畑、生野の3つの鉱山を結ぶ輸送ルート「鉱石の道」と名付けて鉱石や従業員を運んだ電車やインクラインなどを産業遺産を地域資源として活用するとともに、生野鉱山~姫路港を結ぶ日本初の高速産業路道路(馬車専用道路)を「銀の馬車道」と名付け、「道」をテーマに両地域資源を紡ぎ、ネットワーク化させることで、新たな地域の文化として発信している。

行政界を越えた地域間連携が進み、広域的に地域づくりができるようになっていく

・自動車移動を前提とした地域構造から公共交通を軸としてつながる地域構造へと転換している

- 自動車の利用を控え、公共交通を軸とした都市構造、地域づくりが進んでいる
- 既存の公共交通を補完し、住民にとって使い勝手の良い地域交通が創意工夫により運営されている

・地域の競争力向上、自立的な圏域形成を求め、都市間・地域間の連携、県境を越えた広域連携が進む

- 摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧国や経済圏単位での結びつきが府県境を超えて一層強まっている
- 行政界を越えた圏域単位での施設・サービスの相互利用や住民サービスの標準化が進んでいる
- 防災、医療、観光、産業政策など課題に応じた広域連携の取組が進展している

近隣都市が公共交通を軸に連携することが重要に人口減少に伴う輸送人員の減少により、鉄道、バスの維持が困難になる。基幹となる公共交通軸を維持、整備するとともに、都市機能が多核分散した都市で核間を接続する公共交通の強化を図り、公共交通軸周辺へ、住宅、公共施設、生活サービス施設などの立地を誘導することも必要。



昼間使わないスクールバスを町民バスとして活用(新温泉)
公共交通空白地域の解消・公共施設などへのアクセス確保などを行うため、昼間活用されていないスクールバスを一般の方が利用できる混乗型のバスとして利用し、バス路線以外では福祉タクシーの運行など、地域の需要にあわせて交通体系を構築。



関西の府県が幅広い分野で連携
府県境を越える広域的な行政ニーズに柔軟に対応するため、「関西広域連合」を設立。将来、国の出先機関の事務の受け皿となることも想定し、東南海・南海地震に備えた広域防災対策、ドクターヘリの最適配置・運航、広域観光・文化振興など関西全体にわたる広域行政を展開している。



地域の課題に県境を越えて連携し解決する
3市町連携の「東備西播定住自立圏」では兵庫-岡山県境をまたぎ地域医療連携、図書館や文化・スポーツ施設の相互利用、獣害防止対策など共同で取り組む。また、兵庫・京都の丹波5市町連携の「大丹波構想」では、農作物や観光名所を「丹波ブランド」として一体的に情報発信し魅力ある地域づくりを推進。



協働シナリオ 11 個性を生かし自立する多彩で元気な地域づくり

地域再生大作戦や住民による地域運営、地域資源のツーリズム化などこれまでの取組を踏まえ、身近なところで生活を支える機能やなりわいの集積を進め地域の活力を高めるとともに、空き空間や地域資源の使い方を工夫することで、集落や都市それぞれの魅力や潜在力を引き出し、個性豊かな地域をつくる。さらに、地域間の連携を進め、農村から都市への人口移動を緩和することで、農村・都市双方の持続を図り、狭域から広域まで、地域と地域が補完し合いながら課題を解決していく元気な地域をつくる。

ビジョン 10年間の主な取組とこれからの展開方向

地域のにぎわいを取り戻すため、集落間連携や小規模集落の活性化対策などの取組を生かしつつ、集落間、近隣都市との交流・連携を創造し、自立・持続する地域づくりを進める。

新規就農支援による移住や都市農村交流に取り組むNPOの活動など、高齢化と過度の集住化を抱える都市部からむらへの人・モノ・情報の流れを活発化させ、農村・都市双方の持続化を進める。

地方都市は、商店街空き店舗の活用、駅や医療機関を核としたまちづくりなどを進めてきた成果が生かされ、まちなか空き空間への生活機能が集約化・拠点化による住民のニーズに対応したコンパクトなまちを目指すとともに、多自然地域の自立を担うハブ拠点化を目指す。

ニュータウンは、家族の近居・隣居の動きや空き空間を農園や太陽光発電へと活用する動きを継続させ、空き空間を生かした職住が近接した多世代が交流する持続可能なまちに再生していく。

大都市は、自然と文化との調和、住・工・商の混在したまちの特徴を生かし、多様な人々が交流する都市の良さを伸ばし、多文化、多世代が集うまちづくりを進める。

住民主体で運営するコミュニティバスや高速化された基幹鉄道などを活用し、集落と市街地や市街地中心間を結ぶ交通ネットワークを形成、自動車から公共交通への利用転換を促進する。

定住自立圏構想や関西広域連合など広域的視点での取組を生かし、近接する都市・地域間や県域を越えた広域で生活関連サービスの機能分担、医療、教育、防災などの広域的な自立を目指す。

集落間の連携創造による広域村づくり

- ・ 集落連携による地域運営
 - 複数集落単位の協議会の設立、意志決定など地域運営の実施
 - 集落行事、都市農村交流などを複数集落での共同実施
 - 負担金徴収、土地利用調整権限、公共物管理権限をもった地域づくり主体の育成
 - 集落の未来を描いた村ビジョンの作成、二地域居住者を想定した運営ルールの明確化
- ・ 多自然地域型の生活支援サービスの確保
 - 廃校舎や空き施設を利用した、交通・生活支援拠点となる「村の駅」の整備と住民による運営
 - 地域包括支援センターを核とした医療・福祉機能、買物、金融、宅配、図書館などの生活支援機能の配置^(再掲)
 - 介護サービスと生活支援サービスの効果的な運営連携
 - 情報通信技術を活用した診療所と都市部の専門医療機関をつなぐ遠隔診断システムの構築^(再掲)
- ・ 農林水産の可能性や生活空間を生かしたなりわいづくり
 - 担い手づくりと担い手への農地集積化、農の6次化^(再掲)
 - 地域資源の活用による若者・高齢・女性のなりわいの確保と多業化の促進^(再掲)
 - 住民が出資する共同店舗や移動販売などの地元経営^(再掲)



地域ぐるみで防犯、福祉、空き家対策などに取り組む奥銀谷地域自治協議会(朝来市生野)



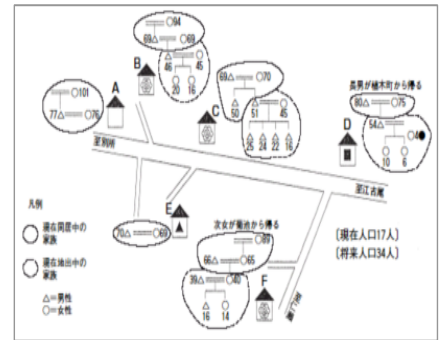
地産地消の農産物を使ったアイデア商品づくり(多可)

放棄から利用への転換による集落空間の最適な管理

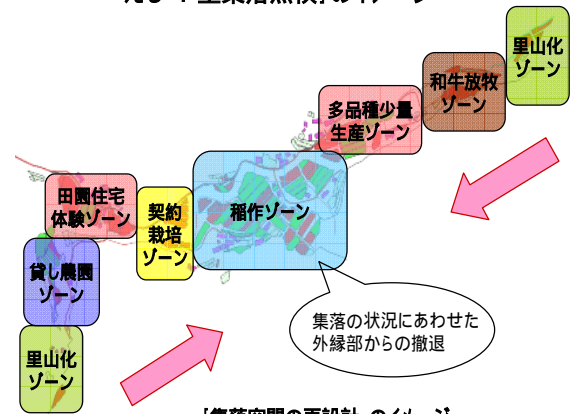
- ・集落内の空間や生活圏の再編
 - 空間の最適管理や村移りについての協議など住民主体での地域運営の実施
 - 存続をめざす集落周辺の農地などの野放図な用途転換の抑制など、集落空間の再設計の実施
 - 集落でのT型集落点検や土地の棚卸しなどによる空き家、空地、耕作放棄地、森林などの把握と共同活用
- ・持続困難集落（村移り後）の空き空間の活用
 - 集落の家屋、農地、森林の一体での有効活用
 - 用途のない家屋の撤去などによる里山化
- ・空間の地域による公共財化と共同利用を通じたつながりづくり
 - 入会地など集落の自然空間の共有管理のしくみづくり
 - 複数集落での共同利用施設の集約化と管理運営（公民館、集会所、学校、図書館など）
 - 税の軽減などによる貸与利用の促進
 - 空き空間の集約・再編、不在地主への管理負担金徴収
 - 空き空間を活用した地域活性化の情報発信・活動拠点整備
 - エネルギーや食の生産拠点としての空間活用と集積化

集落外の主体が結節点となった交流による農村・都市双方の持続化

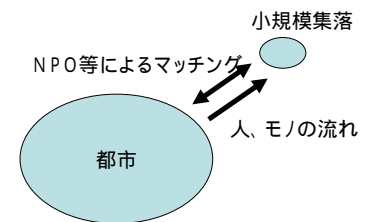
- ・多様な主体による村づくりへの参画
 - 専門家の参画による村づくりビジョンの作成
 - NPOや学生の参画によるむらとまちの協働体制づくり
 - 初期投資が必要な地域資源（森林管理、特産品など）の活用を支援するための資金調達ファンド（基金）の形成（再掲）
 - 活性化事業に取り組む人材やコーディネーターの育成（再掲）
- ・むら情報の発信、まち・むらをつなぐ結節機能の充実
 - 良質な空き家の情報、生活環境の魅力やしごとに関する情報の広域での発信
 - 公民協働による横断的な仲介や中間支援の強化
 - 信用力のある事業者の仲介による空き家の流動化の促進
- ・U・J・Iターンの推進によるまちからむらへの流れづくり
 - 通信環境整備やバリアフリー化など古民家の改装
 - 血縁を超えた空き家の「住み継ぎ」を実現するマッチング
 - U・J・Iターン者による移住希望者への移住支援
 - 住み替えを後押しする柔軟な融資制度の整備
- ・週末居住の半村半都や季節的・短期的滞在の拡大
 - 滞在型市民農園、菜園付住宅整備による二地域居住推進
 - 自然の中で子どもの健やかな育成を図る農山漁村留学
- ・集落文化・資源のツーリズムへの活用や地域のしごとの創出
 - 地域主導による歴史文化や地域食文化、集落景観の維持
 - 古道・史跡、郷土料理、B級グルメなど、集落の資源を活用したツーリズムの推進
 - 山陰海岸ジオパーク、銀の馬車道など広域な地域資源の活用



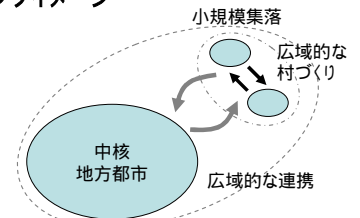
集落の家族の動向から集落の状況を考える「T型集落点検」のイメージ



「集落空間の再設計」のイメージ
（参考：島根県中山間地域研究センター資料を元に作成）



NPOなどによるむらと都市のマッチングイメージ



集落外との広域的な連携のイメージ



都市住民の田舎暮らしを後押しするいなか暮らし塾（朝来市）



多自然地域ならではの体感地引き網体験（新温泉）

住民ニーズに対応したコンパクトな地方都市づくり

- ・集客施設などの連携による市街地の中心地づくり
 - 都市の将来像ビジョンの住民、事業者、行政の共有化
 - まちなかの病院、健康福祉施設と郊外から回帰するスーパーなどとの連携による安心安全・にぎわいづくり
- ・市街地の空き空間活用による中心地の魅力とにぎわいの創出
 - NPOなどの活動拠点、学生などのチャレンジショップ、まちづくり協議会によるテナントミックスの実施(再掲)
 - 住民ニーズに応じた生活関連サービス施設が集積するサービス街化
 - 商店街への社会起業家の集積、「モノを売る」から「しくみを届ける」へシフトした新たな集積
 - 集落商品の販売拠点、移動販売車の集配拠点への活用
 - ゆとりあるまちなみ形成に向けた休耕農地の緑地化
 - 景観条例などによる美観を損なう開発・建築の規制
- ・地域の多様性に配慮した中心地へのゆるやかな集約化
 - 無秩序な沿道開発など、まちの拡散を抑制するための都市計画法、農地法、緑条例などの適切な運用
 - 空き家バンクなどを活用した、市街地外縁部居住者への多世代共住に配慮した既存市街地内の空き家の斡旋
 - 村移りする住民の受け皿としての複数の空き家の活用(コミュニティを丸ごと受入れるグループホーム)

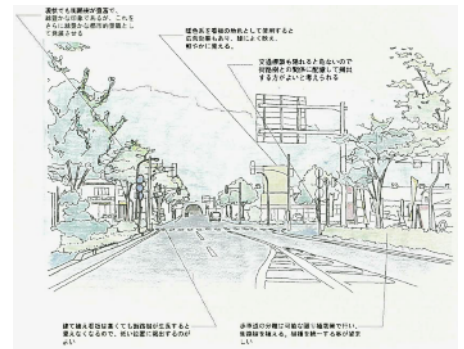


駅前立地で診療所近接のデイスー
ビス併設高齢者賃貸住宅(福岡)



サブリース を活用し空店舗を廉価
に貸出している寺家町商店街(加古)

サブリース:建物・付帯施設を一括賃借し、運営・管理を一体的に行い、小口貸借するしくみ



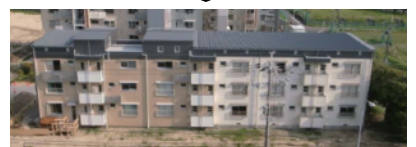
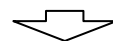
地区や地域の景観形成の基準を示
す景観ガイドラインのイメージ(例)

多世代共住、職住学近接などの実現による持続可能なニュータウンづくり

- ・生活を支える安心機能を備えたまちづくり
 - 住民が主体的にデザイン、運営するコミュニティバスなど地域のサイズに合った公共交通の促進(再掲)
 - 環境にやさしい電気自動車バスなどの移動手段の確保(再掲)
 - 情報通信技術による見守り、既存住宅のバリアフリー化(再掲)
 - 地区センター、駅前などの再生・活用(しごと、医療、福祉、学習、物販、NPO、電気自動車カーシェアリングの拠点化)
- ・地域主体での空き空間活用による豊かな多世代共住
 - 近居・隣居への空き家の斡旋や二戸一での用地取得推進
 - 徒歩が困難な高齢者などの駅近住居の斡旋
 - 空き家の廉価な転貸(サブリース)による子育て家族層の移住(再掲)
 - 戸建て住宅や集合住宅の共同借り上げでのハウスシェア、ルームシェア促進による若年層の移住促進(再掲)
 - 空き地でのガーデニング、菜園の促進(再掲)
 - 近郊の豊かな自然を活用した環境学習、学校農園
- ・住宅ストックの効率的な管理・運用
 - 老朽化、荒廃住宅の撤去、集合住宅の減築や二戸一改造
 - 用途や対象を絞った集合住宅の改修再生(子育て向け団地、バリアフリー型グループホームなど)



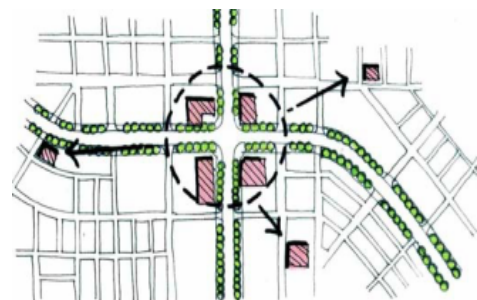
空き空間を活用したオープンガーデン(淡路)



5階建て集合住宅の上層2階を「減築」した団地

・就業の場の創出による子育て世代を中心とした職住学近接の実現

- 年齢構成が近い世帯がまとまって居住している特性を生かしたコミュニティビジネス起業の支援（高齢者生活支援、外出支援、住宅管理支援など）
- 空き家への子育て支援施設の立地支援^(再掲)
- 住環境に影響を及ぼさない事業所や学校などの立地促進
- 生活関連施設の徒歩圏内(住宅用地内)への分散立地
- コミュニティビジネス起業への低家賃でのスペース貸出
- コミュニティビジネスの事業体と地域との橋渡しを行う中間支援組織の育成
- 医療、福祉、教育分野での市街地や近隣ニュータウンとの連携、役割分担



生活関連施設の住宅用地への分散立地による職住の近接

・ニュータウンの資源循環づくり^(再掲)

- 日照のよさを生かした太陽光発電群による創エネ
- ニュータウン内で発生する食品残さや近郊の雑木林の参画管理と連動したバイオマス燃料やたい肥化
- 周辺の遊休農地の市民農園化による食の自給自足

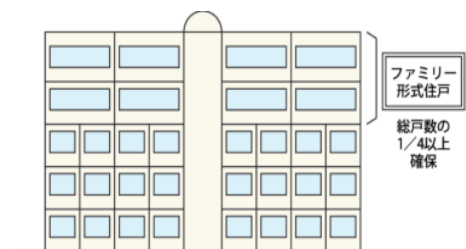


スーパーの食品廃棄物などからたい肥を製造し農園で利用

瀬戸内臨海部における大都市の可能性を生かした多選択・多参画型の地域づくり

・多様な住まい方の創出

- 長屋住宅、オフィスビルの住宅改修、親子近居・隣居型マンションなど多様な居住形態の創出
- 家族以外が半共同生活するシェアハウスなどの普及^(再掲)
- 地元住民とマンション居住予定者とのコミュニティづくり、地域コミュニティの融合促進^(再掲)



多世代共住を図るしくみの例(神戸)
子育て家族層への居住を促すマンション

・多世代交流によるつながり醸成型空間の創出

- 公民館などを活用した、「まちの台所」の展開（料理づくりを通じた交流や高齢者給食サービスの拠点）
- 廃校舎など空き施設での子育て支援、生涯学習、スポーツ、憩いの場など、多様なサービスの提供^(再掲)
- 駅前商店街の空き店舗での地域の高齢者が運営参画する学童保育や一時保育など、買い物や仕事帰りに立ち寄る住民交流の場づくり
- 公共用地や半公共空間の集い・憩いの開放空間への活用とそのルールづくり
- 半公共空間を活用、維持・管理するための資金の拠出、寄付を地域住民から得るしくみづくり



廃校を利用した生涯学習支援センター
コミスタこうべ(神戸)

・都市のまちなかへの人の集まり・にぎわいの再生

- 集客力のある核店舗を生かした商店街の再生^(再掲)
- 廃校を活用した診療所、買物施設、コミュニティバスのターミナル、物流センターなど人・モノが集約する施設の配置^(再掲)
- 都市計画の特別用途地区などの活用による多機能の集積
- 歩道やオープンスペースを使ったにぎわいづくり^(再掲)（露天、オープンカフェ、大道芸人の公演など）



核店舗で活性化する水道筋商店街(神戸)

- ・高齢者、障害のある人が安心して外出できるしくみづくり
 - 高齢者・障害のある人が外出中に一休み、交流できる場づくり（ベンチ、東屋、空き家の縁側を活用した休憩所）
 - 高齢者や障害のある人、子どもの区別なく集い過ごせる場づくり（デイサービスセンターなどの新たな活用）
 - 高齢者の歩行介添など、外出・旅行支援のコミュニティビジネスの育成や総合的なサービスの提供（再掲）
 - 携帯端末を用いた高齢者、障害のある人の安心安全な誘導システム（歩行者ITS）の構築（再掲）



段差や障害物などの存在を知らせる歩行者ITS（イメージ）

＜歩行者ITS＞携帯端末などにより、歩行者に現在の位置情報や経路案内情報を提供することにより、確実に快適な移動を実現する。また、障害のある人に対しては、その条件に合った最適な移動経路情報などを提供し、安全で快適な移動の実現を支援する。

- ・ユニバーサルな遊歩空間づくり
 - 歩道や自転車通行帯の拡幅、バリアフリー化（再掲）
 - 自動車流入制限や駐車場集約、台数抑制を組み合わせた、歩行者と自動車の動線分離の徹底
 - 郊外などでの公共交通へ乗り換えるパーク・アンド・ライド推進による都市部流入車両の削減（再掲）



自動車の速度制限、流入制限交差点の狭さの例（神戸）

身近にある歴史・文化・遺産を活用した地域の魅力創出

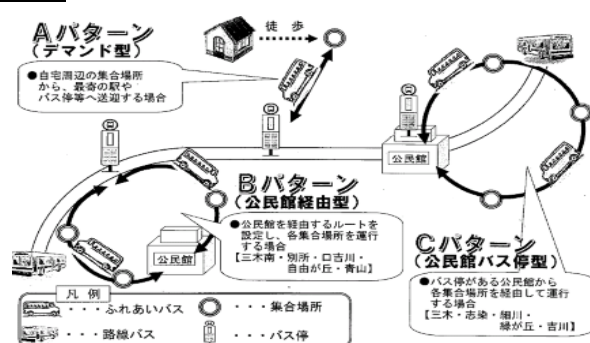
- ・地域の歴史・文化・自然環境のネットワーク化と次世代への継承
 - 地域に存在する有形無形の歴史・文化・遺産の継承（再掲）
 - 地域ぐるみで行う行事・祭りなどの次世代への継承による、地域の誇り・愛着づくり
 - 地域資源や自然環境を地域間でつなぐ散策路整備など地域の特色のネットワーク化（再掲）
 - 地域資源を生かした住民起業など、地域に根ざした「しごと」への展開（再掲）



地域のつながりを未来につなげる灘のけんか祭り（姫路）

集落と地方都市、地方都市間をつなぐ交通ネットワークの構築（再掲）

- ・さまざまな主体がつくる公共交通ネットワーク
 - 市街地の中心地間を結ぶ公共交通軸の整備
 - 自動車から公共交通へ乗り換える郊外でのパーク・アンド・（バス）ライドの推進（再掲）
 - 市街地の中心地と集落などを結ぶ住民経営のコミュニティバスのネットワーク化
 - 電気自動車など環境対応車の普及に向けた車両性能の向上と緊急用の充電インフラの整備



地区にあった形での運行パターンを決定
まちづくり協議会が運行するコミュニティバス（三木）

地域・県域を越えた連携・交流による地域課題の解決

- ・地域・圏域を越えたさまざまなサービス、生活面での連携
 - 公共交通が発達していない複数市町間での公営バスやコミュニティバスの相互乗り入れ（再掲）
 - 複数市町間での医療機関の相互連携（再掲）
 - 移住前の市町が保険者となる介護保険の住所地特例の活用による特別養護老人ホームなどの整備
 - 県、市町域を越えた圏域連携による森林保全、獣害対策（再掲）
 - 県境を越えた「圏域」での防災、医療、観光、産業振興などの幅広い課題に対応した広域連携の推進



広域的な救急医療体制の確保

将来像 12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

世界に開かれた生活環境や、企業、研究機関などの分厚い集積が呼び水となり、経済や生活、文化、地域活動のあらゆる分野で、世界の地域と兵庫の地域がつながり、相互に高め合いながら共生・成長する「アジア交流圏」が形成されている。

〔夢提案〕

- 地域で生活する外国人は、日本人と同じように接してもらいたいと思っている。また、留学生の就職や就業につながる支援が必要。(神戸地域夢会議参加者)
- 地域経済の活性化には、地域内の力に加えて地域外、特に世界を視野に入れた外資の力の活用が重要だと思う。(小野市高校生)

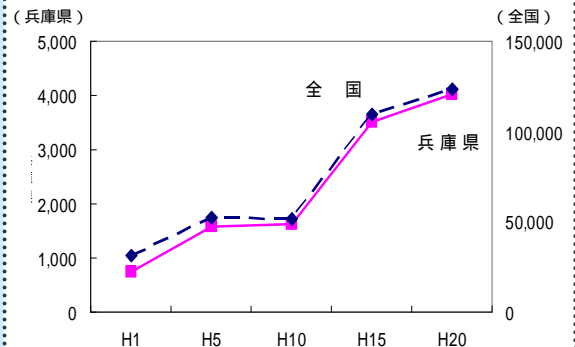
兵庫がアジアにおける人材育成拠点を形成している

- ・多言語習得や多文化理解が進み、兵庫発の人材が世界にはばたいている
 - 多彩な国際交流のプログラムにより、若年層の多言語習得や多文化理解が進み、兵庫から世界にはばたく人材が増えている(再掲)
 - 海外での就学・就業経験を県内での就業や地域づくりに生かせる環境が整い、国際的な知見が地域の課題解決に生かされている(再掲)
- ・知的基盤などの集積が国内外から創造的な人材を集め、国際的な知の拠点を形成している
 - 最先端の科学技術基盤や研究機関、大学、企業、国際機関などの集積により、国際的な知の拠点が形成され、国内外の留学生、研究者、技術者、クリエイターなどの特色ある人材が集まっている(再掲)
 - 留学生が県内で就業しやすいしくみや、兵庫での経験を生かし、母国と兵庫を結びながら活躍できるしくみなどが充実している

大学と連携した拠点機能の強化
 兵庫県立大学では京速コンピュータの整備に伴いシミュレーション学研究科を新設。海外の大学との連携強化にも取り組む。
 また、県と神戸大学が包括連携協定を締結。研究活動のさらなる充実、産業人材の育成などをめざす。



県内で学ぶ外国人留学生の増加



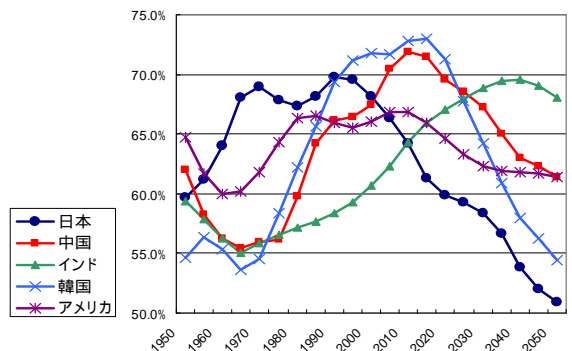
出展：文科省「留学生受入の概況」及び県国際交流協会資料より県ビジョン課作成

貢献と交流の広がりにより、世界と兵庫が双方向に結ばれている

- ・兵庫ならではの経験と蓄積が世界の課題解決に貢献している
 - 震災からの復興の経験や先端科学技術などの蓄積を生かし、防災、環境・エネルギー、食料・水資源、先端医療・介護などの分野で、国際貢献の世界的な先進地を形成している
- ・国内外の地域と地域が、互いの特色を生かしながら、交流・連携を深めている
 - 国内外の地域と地域が、固有の自然環境、文化、産業、住民起業など、互いの特色を生かしながら、草の根の交流連携を深めている

わが国につづき高齢化するアジア

【各国における15～64歳人口比率の推計】



出典：国連 HP World Population Prospects: The 2008 Revision Population Database から県ビジョン課作成

国際市場の一体化・分業化の中で、兵庫の産業の存在感が高まっている

- ・兵庫の科学技術基盤を核に、世界との分業化・一体化を深化させて、共に成長する技術革新拠点が形成されている
 - 県内の企業や研究機関などが、関西各地の特色ある産業拠点やアジアなどの豊富な労働資源や生産拠点と、それぞれの得意分野を補いながら連携を深化させ、グローバル化に対応した技術革新を実現している（再掲）
- ・世界のニーズとつながる価値創造型のものづくりとサービスにより、オンリーワンの「小さな世界企業」が県内各地で育ち、活躍している
 - 優れた技術やサービスを背景に世界市場でシェアを高めるオンリーワン企業や、新しい分野で世界最先端をめざす企業が県内各地に生まれている（再掲）

小型モーターで世界のトップ企業に(加西)

世界で最初のコンベア駆動用小型モーターローラを開発。多様化する自動化ニーズに応えながら、世界で高いシェアを築いた。

コンベア駆動用
小型モーターローラ



兵庫の暮らしが世界に開かれ、多文化共生が実現している

- ・外国人県民にも暮らしやすい生活環境が整っている
 - ワンストップ型の相談窓口や標識の多言語表示、教育・医療・防災機関など、外国人県民も安心して暮らせる環境が充実している
 - 地域住民と外国人県民が、文化的違いを認め合いながら、地域社会の構成員として共に助け合う社会が実現している

地域社会と連携した多文化共生
「NGOベトナム in KOBE」では地域住民とともにイベントを開催。

ラジオなどで身近な情報をベトナム人と地域社会に伝える活動に取り組んでいる。



地域資源を生かしたツーリズムによる交流が広がっている

- ・兵庫・関西の多彩な地域資源を「物語」でつなぐツーリズムにより、国内外から誘客が拡大し、地域に新しい交流と活気を生み出している
 - 自然環境、農林水産品、療養地、名所旧跡、産業遺産などの観光資源が、地域固有の「物語」で結びつくとともに、住民自身の参画によるホスピタリティ（おもてなし）により、国内外からの誘客が拡大している（再掲）
 - 大都市との近接性や関西共通の歴史・文化、交通・物流基盤を生かし、特色ある観光資源を広域的につなぐツーリズムが展開している（再掲）

地域特性を生かした海外との地域間連携

3府県にまたがる山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟。先進地であるギリシャ・レスボス島のジオパークと提携した。



アジアのハブ機能を担う交通・物流ネットワークが充実している

- ・空港・港湾などのネットワークの拡大と利便性の向上が、交流・連携の拡大を支えている
 - 関西3空港、阪神港、高速道路などの最大活用と規制緩和、コスト低減などによる利便性の向上により、関西の産業集積や観光資源が世界と結ばれている
 - ハブ拠点と県内各地域を結ぶ交通・物流ネットワークが充実し、世界との交流拡大による活力が県内のすみずみに及んでいる

国際コンテナ戦略港湾「阪神港」

コンテナ港湾の選択と集中による国際競争力強化を図るため、平成22年8月に京浜港とともに指定。港湾の一体運用などによる機能強化を図る。



協働シナリオ 12 アジア交流圏による世界に開かれた兵庫づくり

神戸空港や阪神港などの交流基盤、国内外の人材を生かす知的基盤の整備が進む中、地域資源を活用した世界との交流が拡大する中、世界に開かれた兵庫づくりを推進し、こうした交流を地域の活力に結びつけることで、相互に補完しながら共生・成長する「アジア交流圏」を構築する。

ビジョン 10 年間の主な取組とこれからの展開方向

ものづくり大学の整備推進や県立大学における学科の充実、海外連携の強化などに取り組んでおり、兵庫経済を力強く支え、また世界に飛躍する人材を育成する、国際的な拠地の形成をめざす。

ジオパーク、コウノトリの野生放鳥などの取組を国内外に発信してきた。今後、県内に集積する研究機関・国際機関などの活用、国際会議の誘致などにより、兵庫ならではの環境・防災などの蓄積を生かす国際的な拠点づくりを推進する。さらなる世界化に対応するため、兵庫県COEプログラムや新産業創造プログラムなどを推進しており、健康・医療、環境・エネルギー、情報通信などの成長分野の産業振興が進みつつある。今後ともアジアなどとの連携強化により成長を取り入れ、県内各地域に還元させるための取組を推進する。

JETプログラムによる外国青年の受入などの幅広い国際交流の実績を生かし、異なる文化的背景や価値観を持つさまざまな国の人々との積極的な交流の中で、国際性豊かな地域づくりを推進していく。

地域固有の資源を生かすツーリズムが拡大する中で、地域資源の発掘と国内外への発信を進めており、地域資源を「物語」で結ぶ取組によりさらなる外客誘致と交流の拡大を図る。

阪神港が国際コンテナ戦略港湾の指定を受けるなど、交流を支える基盤づくりに努めてきた。アジアなど、世界の活力を呼び込むため、空港・港湾・道路などを一体としたさらなる利便性向上に取り組む。

国内外の特色ある人材が集まるアジアの人材育成拠点づくり

- ・世界にはばたく「兵庫発」の人材育成の推進^(再掲)
 - 姉妹・友好提携州省などとの交流体験による青年リーダー育成
 - 多言語習得、ギャップイヤーを活用した海外企業でのインターンシップなど、国際的なキャリア形成の促進
 - 海外進出をめざす企業と県内人材のマッチングなど、「兵庫発」の人材が活躍できる県内のしごとの場づくり
- ・特色ある海外人材が集まる拠点づくり^(再掲)
 - 知的創造拠点を求心力とした研究者などの集積、国際的な大学間協定による創造的な人材集積の拡大
 - 県内での就職を希望する留学生への就職サポートの充実など、留学生と企業をマッチングするしくみづくり
 - 看護・介護などの専門人材や、国際食と農の学校の開設、高度な農業技能の継承などによる高度専門人材の育成拠点づくり



ひょうご国際プラザは、国際性豊かな地域づくりのため、ボランティアとの連携やネットワークづくりを推進している。

兵庫の経験と蓄積を生かした双方向型の貢献と交流の拡大

- ・兵庫ならではの課題解決の先進地づくりと世界への発信
 - 復旧・復興、防災・減災、高齢者のまちごと見守り、小規模集落活性化など、兵庫ならではの経験と蓄積の発信
 - 環境負荷軽減の兵庫型パッケージの海外移転（コウノトリの野生復帰、循環型農業などによる取組）
- ・海外と兵庫の地域と地域が直接つながる交流の促進
 - 地域の特色を生かし、同じテーマでつながる地域間連携の拡大（山陰海岸とギリシャ・レスヴォス島など世界のジオパークなど）



淡路夢舞台国際会議場は2000年開業以来10年連続で、国際会議の開催件数の全国上位を維持。(2009年は全国第8位)

兵庫とアジアの経済・産業が一体で成長する「アジア交流圏」の形成

- ・国際的な視野で技術革新を実現する産学・産産連携の深化
 - ライフサイエンス、ナノ・バイオ、未来型情報家電・ロボット、次世代電池・エネルギーなど、関西・アジアなどの特色ある産業拠点と、それぞれの得意分野を生かしながら進める技術革新の展開（再掲）
- ・大きく成長するアジアなどとの連携強化
 - 世界的な産業拠点の最適化の中で、兵庫に先端の研究開発拠点を置きながら、アジアなどの生産拠点と戦略的に連携する県内企業の展開支援（再掲）
- ・わが国に続いて高齢化が進むアジアなどの多様なニーズに対応した産業の展開
 - 鉄道などの輸送システムや医療・介護システムをはじめとする高度なものづくりと運用技術などをワンパッケージ化した海外展開の推進（再掲）
 - 安全安心な食料・水の確保など、開発途上国への技術・サービス移転により、貧困社会の課題解決を図るビジネスの推進（再掲）
- ・オンリーワンの技術開発を創出する産学連携・企業間連携の拡大
 - ものづくり、環境・エネルギー、生活関連サービス、ファッション、食品・水など、新興国・途上国の多種多様なニーズに対応して成長する小さな世界企業の育成（再掲）
- ・県内企業の海外展開を支援するしくみの構築
 - 大学、研究機関などとのマッチング機能の充実、海外進出を支援する「海外ビジネス村」（現地企業ネットワーク、企業団地）の構築（再掲）



シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州との交流と、ひょうご・神戸への企業誘致を促進するため、ドイツ・キールで兵庫県ビジネスセミナーを開催した。



ひょうご環境創造協会では、モンゴルの森林再生・管理に関する国際フォーラムなどを開催している。

世界に開かれ、住民参加で多文化共生が実現する兵庫の暮らしづくり

- ・外国人県民も暮らしやすい環境の整備
 - 行政手続のワンストップ化、標識の多言語表示化の推進、防災・医療機関の利便性を向上する通訳システムの開発
 - 多文化理解を推進する学校・地域協働での取組推進



ヨーロッパ最大の日本文化紹介イベント JAPAN EXPO（パリ）で兵庫県 P R 活動を実施した。

兵庫・関西ならではの地域資源を活用したツーリズムの拡大

- ・地域をつなぐ「物語」型ツーリズムの展開（再掲）
 - 農村体験、地場産業の「匠」の技術体験、温泉地での療養など、住民参画によるホスピタリティ（おもてなし）を生かした体験型ツーリズムの振興
 - 関西を結ぶ広域観光ルートづくりによる長期滞在型ツーリズムの推進、大都市への近接性を生かした多彩な観光プログラムの形成

アジアのハブ機能を担う空港・港湾などの基盤の活用

- ・空港・港湾などのネットワーク拡大、利便性向上のための機能充実
 - アジアの交通・物流のハブ機能を担う関西3空港・阪神港の国際競争力強化（集荷機能の拡大、コスト低減、「創荷」の取組）
 - 交流拡大に対応したC I Q（税関・出入国管理・検疫）機能の強化



広東省の旅行社で兵庫県の観光名所やモデルコースを提案した。